

## ユジノサハリンスクのエスペラント講演会に関する資料について

北海道エスペラント連盟 横山裕之

(<http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/sahxaleno/PriDokumento.pdf>

に同じ文書を置いてますのでリンク等でお使いください。)

ユジノサハリンスクでエスペラント講演会を始めるにあたって、ロシア語で書かれた講演・講習会案内のビラ、新聞広告、講演内容等の文書を作る必要がありました。これらをスムーズに作成するのに、ロシア人のエスペランチスト（エスペラント使用者）のご協力もいただけるとよいのではないかと考え、日本でご活躍なさっているセルゲイ・アニケーエフさんやロシアエスペランチスト連合（REU）のアレクサンドラさんにロシア語翻訳をお願いしました。快諾していただきまして感謝しております。アレクサンドラさんには、エスペラントでロシア語文法の細かい部分までクリアなご説明をいただき、大変興味深い体験をさせていただきました。エスペラントでよくわからない言語を学ぶというのは面白いですね。文法用語が理解できれば何となくわかります。作成した文書は、「[サハリンでのエスペラント普及活動に関する資料](#)」という当連盟ウェブページに収めています。（日本語、エス文もあります。）

<http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/sahxaleno/sahxaleno.htm> ←クリックするとリンク先へ移動



[ビラ・日本語版へ](#)

[講演内容・日本語版へ](#)



←クリックするとリンク先へ移動（図はロシア語版）

エスペランチストは、1996年の世界大会で「プラハ宣言」を發表しました。これは、現代社会におけるエスペランチストの立場を明らかにしたものです。この中で、言語を使う権利、言語の多様性という考えを謳ってます。これは、エスペランチストは、各人の母語である民族語を第一の言語と考え、エスペラントは、母語が違う民族どおしが交流する時にだけ使う国際補助語であるというエスペラントが始まった約100年くらい前の初期の考えに繋がっています。

このような考えは、エスペラントを通じて、一つの民族語に偏ることによる弊害、不公平や不平等を正していこうという理念にも通じていると私は理解しています。

私は、日本では弱い立場にあるアイヌ語の新聞をアイヌの人々と発行する活動をしています。この活動はプラハ宣言にも関連しているものと考え、今回の講演会の中で支援していただける方へ向けた広告ビラを作成し、その裏面にはプラハ宣言を載せました。



[アイヌ語新聞紹介・日本語版へ](#)



←クリックするとリンク先へ移動（図はロシア語版）

最後に、街頭で配布したロシア語ビラの裏面をご紹介します。これは、宮沢さんが作成したもので、わかりやすい感じになっています。ロシア語訳はセルゲイさんが作成しています。

## エスペラント語はなぜ必要となったのか

1887年にエスペラント語が考案されて以来、様々な困難にもかかわらずエスペラントは絶えることなく持続し、発展してきました。現在、全世界で百万人の人がエスペラントを学び、使用していると言われています。なぜこのような言語が考案され引き続き存在してきたのでしょうか。それは、近代以降の世界社会の条件によるのです。

### 1. 大衆の生活が国際的になってきた

近代以降、民主化がすすむにつれて、民族の文化とことばが発展していくとともに、他の民族の文化との交流が深く広がってきました。国際的な生活や文化は一部の専門家や余裕のある人達に限られず、だんだんと大衆の生活ともかかわりあいを強くしてきました。

### 2. だが、外国語はむずかしい

国際的な生活に加わるために必要な手段は、外国語を学ぶことです。ところが外国語はどれもむずかしすぎます。民族のことばは子供の頃から長い年月をかけて、まるで母から乳を飲むように覚えていくと言われています。むずかしいことばを自由に使えるようになるにはおびただしい金と時間がかかります。大衆には普通そのようなゆとりはありません。だからサハリンで日本語を、北海道でロシア語を学ぶ人はごく限られているのです。

### 3. その上、外国語はたくさんある

英語は、いまアメリカ資本主義の力を背景にして、各国の義務教育で採用され国際ビジネスで実用されていますが、日本では多くの大衆はその教育にもかかわらず、英語を十分には理解できません。さらにロシア語はドイツ語やフランス語と並ぶ重要なヨーロッパ語ですが、中国や日本のことばも無視できません。スペイン語やアラビア語なども世界情勢を理解する上で重要になってきています。こうなるとは外国語のぬかるみ道は、はてしなくつづくのです。

### 4. 民族の自主性の重要性

ロシアのみなさんは、ロシア人としてロシア語をはじめとして諸民族のことばと文化を守りそだてていかなければなりません。ときとして外国語を使うということが、自分のことばを捨てて相手のことばへの隷属となることがあります。たとえば、国際会議で自分のことばを使わず、不自由な相手のことばで話しあうとすれば、お互いのことばの対等性は失われてしまいます。民族の自主性をみとめた上での国際的な民主的な生活がもとめられています。

エスペラントは、どこの国のことばでもありません。すべての人にとって、第2のことばです。エスペラントをつかうことは、誰に対してもその人の民族性を少しも傷つけません。この平易なことばは、国際的な言語生活に対等な民主性を保証します。